

新施設エゾヒグマ館オープン



平成 22 年 4 月 17 日（土）にオープンしたこの施設は、北海道に生息し陸生動物の中で日本最大の動物「エゾヒグマ」を生き生きと快適に過ごせる空間で展示するエゾヒグマ館です。

展示場は北海道の森の一部を切り取ったかのように、小高い丘や池（プール）、洞穴などを配置し、エサを探し食べる様子や休憩・睡眠をとる様子などを間近で観察できるようになりました。

1 施設の概要

(1) 竣 工 日 平成 22 年 2 月 26 日（工期 平成 21 年 7 月～平成 22 年 2 月）

(2) 総 工 費 1 億 4780 万円 財団法人宝くじ協会助成事業

（宝くじ協会 1 億 4300 万円 一般財源 480 万円）

(3) 建 物 鉄筋コンクリート造平屋建

延べ面積 屋内施設 152.21 m² 屋外施設 525.24 m²

(4) 植栽の種類 13 種類（放飼場内） シラカンバ、ツルアジサイ、※1 モンタナハイマツ、

コマクサ、フキ、オオイタドリ、クマイザサ、コケモモ、オオカメノキ、

アキグミ、ツリバナ、ノリウツギ、マユミ※1 北海道に自生するハイマツの類似種

2 展示動物

エゾヒグマ（とわ） 雌 1 頭（2008 年 1 月 14 日生まれ）体重約 110kg

のぼりべつクマ牧場から 2010 年 3 月 23 日来園

※エゾヒグマの雄 1 頭も今後展示予定ですが、導入時期は現在未定

3 展示目的

エゾヒグマは、北海道に生息する陸生動物としては日本で最大の動物です。

札幌市内にも生息し、極めて身近にいるにも関わらず、その自然の姿はあまり知られていません。

エゾヒグマ館は、エゾヒグマが生き生きと快適に過ごせる空間づくりに配慮し、エゾヒグマの本来の姿や生態を展示することで、身近なところから環境問題や北海道の自然を考えるメッセージを発信する場となるよう設計しています。

4 施設の主な特徴

○ 放飼場を広く見せる視覚的効果

メイン観覧スペースからみて、敷地対角線の視点上に、手前からプール、放養場、丘、敷地外の林・山が重なることにより空間が広く見えるよう工夫しています。

また、室内飼育スペースを丘の下に設けることで、最大限に放飼場のスペースを確保しています。

○ ヒグマの行動を間近で観察

2ヶ所の観覧スペースには大きなアクリル窓を設置し、「プール」や「雨宿りスペース」、エゾヒグマが手を使って餌をかき出す「えさ穴」やヒグマの休憩場所となる「洞穴」を配置することで、ヒグマの様々な行動を間近で観察することができます。

○ 北海道の大自然の臨場感ある雰囲気再現

高低差が5mに及ぶ丘や池などを配置し、放飼場内の植栽は約13種類にも及びます。さらに観覧スペースと放飼場に連続性を持たせることで、あたかも観覧者が自然の中に入り込んだかのような臨場感ある雰囲気を再現しています。

5 基本設計・施設デザイン

エゾヒグマ館の設計・デザインにあたりましては、札幌市立大学デザイン学部の多大なるご協力をいただいております。

